

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンワカヤマダイガク 国立大学法人和歌山大学								
フリガナ大学の名称	ワカヤマダイガクダイガクイン 和歌山大学大学院 [Graduate School of Wakayama University]								
大学本部の位置	和歌山市栄谷930								
大学の目的	<p>和歌山大学は、県内唯一の国立総合大学として「地域を支え、地域に支えられる大学」であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与する。</p> <p>大学院教育においては高度な理論と実践力を修得させるとともに、時代と社会への深い知性・認識と他者とともに問題解決に取り組む人間関係力を培うことを重視する。</p> <p>研究においては、紀伊半島を含む黒潮文化圏という歴史、自然、経済、文化を活かした研究活動によって創造された知見を活かし、地域から日本と世界の発展に寄与する。</p> <p>また、教員・職員・学生相互の信頼関係のもとでの協働と参画を通じて、「自主・自律・共生の気風にあふれる大学」であることを目指す。</p>								
新設学部等の目的	<p>21世紀は、観光の時代であり、世界の多くの国において観光が基幹産業の一つになりつつある。また、日本の国家政策としても観光が今世紀の重要戦略に位置づけられている。本研究科は、観光まちづくり等に従事する理論的、実務的な教育を受けた専門的職業人の育成を主な目的とするとともに、この分野において高い専門知識を持ち、応用力、創造力そして人間性に富み、国際的視野で行動できる人材を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 観光学部 観光経営学科 地域再生学科 14条特例の実施
	観光学研究科 [Graduate School of Tourism]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	和歌山県和歌山市 栄谷930	
	観光学専攻 [Course Specializing in Tourism]	2	5	—	10	修士 (観光学)	平成23年4月 第1年次		
計		5	—	10					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成23年4月 大学院経済学研究科入学定員変更予定								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実習	計				
	観光学研究科 観光学専攻	19科目	4科目	2科目	25科目	30単位			

	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
			人	人	人	人	人	人		
教 員 組 織 の 概 要	新 設 分	観光学研究科 観光学専攻（修士課程）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	— (—)	4 (4)	博士前期課程 の内数
		計	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	— (—)	4 (4)	
	既 設 分	教育学研究科 学校教育専攻（修士課程）	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	— (—)	3 (3)	
		教科教育専攻（修士課程）	48 (48)	22 (22)	3 (3)	0 (0)	73 (73)	— (—)	6 (6)	
		経済学研究科 経済学専攻（修士課程）	15 (15)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	— (—)	1 (1)	
		経営学専攻（修士課程）	9 (9)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	— (—)	4 (4)	
		市場環境学専攻（修士課程）	9 (9)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	— (—)	2 (2)	
		システム工学研究科 システム工学専攻（博士前期課程）	31 (31)	29 (29)	9 (9)	14 (14)	83 (83)	— (—)	10 (10)	
		システム工学専攻（博士後期課程）	29 (29)	28 (28)	9 (9)	14 (14)	80 (80)	— (—)	1 (1)	
		計	122 (122)	87 (87)	14 (14)	14 (14)	237 (237)	— (—)	26 (26)	
合 計		130 (130)	92 (92)	14 (14)	14 (14)	250 (250)	— (—)	30 (30)		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		113 (113)		0 (0)		113 (113)			
	技 術 職 員		19 (19)		0 (0)		19 (19)			
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)			
	そ の 他 の 職 員		7 (7)		0 (0)		7 (7)			
	計		142 (142)		0 (0)		142 (142)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	32,000 m ²	0 m ²		0 m ²		32,000 m ²			
	運 動 場 用 地	53,000 m ²	0 m ²		0 m ²		53,000 m ²			
	小 計	85,000 m ²	0 m ²		0 m ²		85,000 m ²			
	そ の 他	336,000 m ²	0 m ²		0 m ²		336,000 m ²			
	合 計	421,000 m ²	0 m ²		0 m ²		421,000 m ²			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
		76,000 m ² (76,000 m ²)	0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		76,000 m ² (76,000 m ²)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	49 室	66 室	28 室		8 室 (補助職員 0人)		1 室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				申請大学院 全体	
		観光学研究科			26室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書		学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]				
		冊	種	種	種				
観光学研究科	725,000 [201,000]	7,000 [2,300]	2,200 [2,100]	8,700	0	0			
	(710,000 [198,000])	(6,900 [2,200])	(1,800 [1,800])	(8,000)	(0)	(0)			
計	725,000 [201,000]	7,000 [2,300]	2,200 [2,100]	8,700	0	0			
	(710,000 [198,000])	(6,900 [2,200])	(1,800 [1,800])	(8,000)	(0)	(0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
		8,000 m ²		640		855,000			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		2,800 m ²		野球場1面、テニスコート14面					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による	
		教員1人当り研究費等	—千円	—千円	図書購入費	—千円	—千円		—千円
		共同研究費等	—千円	—千円	設備購入費	—千円	—千円		—千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	—千円	
		—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		—							
大学の名称 和歌山大学									
既設	学部等の名称	修業	入学	編入	収容	学位又は称号	定員	開設	所在地
		年	人	年次人	人		超過率	年度	
既設	教育学部	185			655		1.08	昭和24年度	和歌山市栄谷930
		4	145	—	535	学士(教育学)	1.07	平成11年度	
既設	総合教育課程	40	—	—	120	学士(教養学)	1.12	平成20年度	平成20年度より 学生募集停止
		4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成11年度	
		4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成11年度	
		4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成11年度	
既設	経済学部	330	10		1,340		1.02	昭和24年度	和歌山市栄谷930
		4	110	4	448	学士(経済学)	1.03	昭和39年度	
		4	110	4	448	学士(経済学)		平成4年度	
		4	110	2	444	学士(経済学)	平成8年度		
		4	—	—	—	学士(観光学)	—	平成19年度	
大学	システム工学部	285	3年次		1,195		1.02	平成7年度	和歌山市栄谷930
		4	57	20	239	学士(工学)	1.03	平成7年度	
		4	57		239	学士(工学)	1.05	平成7年度	
		4	57		239	学士(工学)	1.01	平成7年度	
		4	57		239	学士(工学)	1.02	平成7年度	
		4	57		239	学士(工学)	1.00	平成7年度	

等 の 状 況	観光学部		110		330			平成20年度	和歌山市栄谷930
	観光経営学科	4	60	—	180	学士(観光学)	} 1.04	平成20年度	
	地域再生学科	4	50	—	150	学士(観光学)		平成20年度	
	教育学研究科 (修士課程)		45		90			0.95	平成5年度
	学校教育専攻	2	12	—	24	修士(教育学)	1.66	平成5年度	
	教科教育専攻	2	33	—	66	修士(教育学)	0.69	平成5年度	
	経済学研究科 (修士課程)		47		94		0.94	昭和41年度	和歌山市栄谷930
	経済学専攻	2	22	—	44	修士(経済学)	0.70	昭和43年度	
	経営学専攻	2	15	—	30	修士(経済学)	0.70	昭和43年度	
	市場環境学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	1.85	平成11年度	
	システム工学研究科 (博士前期課程)		137		290		1.21	平成12年度	和歌山市栄谷930
	システム工学専攻 (博士後期課程)	2	129	—	258	修士(工学)	1.14	平成12年度	
	システム工学専攻	3	8	—	32	博士(工学)	1.60	平成14年度	
	特別支援教育特別専攻科		10		10		0.90	平成9年度	和歌山市栄谷930
	発達障害教育専攻	1	10	—	10	—	0.90	平成9年度	
附属施設の概要	該当なし								

国立大学法人和歌山大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成22年度	入学定員	平成23年度	入学定員	変更の事由	
和歌山大学		和歌山大学			
教育学部	学校教育教員養成課程	145	教育学部	学校教育教員養成課程	145
教育学部	総合教育課程	40	教育学部	総合教育課程	40
経済学部	経済学科	110	経済学部	経済学科	110
経済学部	ビジネスマネジメント学科	110	経済学部	ビジネスマネジメント学科	110
経済学部	市場環境学科	110	経済学部	市場環境学科	110
システム工学部	情報通信システム学科	57	システム工学部	情報通信システム学科	57
システム工学部	光メカトロニクス学科	57	システム工学部	光メカトロニクス学科	57
システム工学部	精密物質学科	57	システム工学部	精密物質学科	57
システム工学部	環境システム学科	57	システム工学部	環境システム学科	57
システム工学部	デザイン情報学科	57	システム工学部	デザイン情報学科	57
観光学部	観光経営学科	60	観光学部	観光経営学科	60
観光学部	地域再生学科	50	観光学部	地域再生学科	50
特別支援教育特別専攻科	発達障害教育専攻	10	特別支援教育特別専攻科	発達障害教育専攻	10
和歌山大学大学院		和歌山大学大学院			
教育学研究科	学校教育専攻(M)	12	教育学研究科	学校教育専攻(M)	12
教育学研究科	教科教育専攻(M)	33	教育学研究科	教科教育専攻(M)	33
経済学研究科	経済学専攻(M)	22	経済学研究科	経済学専攻(M)	19 定員変更
経済学研究科	経営学専攻(M)	15	経済学研究科	経営学専攻(M)	13 定員変更
経済学研究科	市場環境学専攻(M)	10	経済学研究科	市場環境学専攻(M)	10
システム工学研究科	システム工学専攻(M)	129	システム工学研究科	システム工学専攻(M)	129
システム工学研究科	システム工学専攻(D)	8	システム工学研究科	システム工学専攻(D)	8
			観光学研究科	観光学専攻(M)	5 研究科の設置 (認可申請)

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																		
(観光学研究科観光学専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基礎科目	観光学総論	1前			2	○								兼1				
	観光まちづくり概論	1前	2			○			3	2					オムニバス			
	観光まちづくり演習	1前	2				○		3	2					オムニバス			
	小計（3科目）	—	4	0	2	—			6	4	0	0	0	兼1				
特論科目	基盤科目	観光まちづくり特論	1・2前後		2		○								兼1	集中 前・後いずれかで開講する		
		観光事業特論	1・2前後		2		○		1							前・後いずれかで開講する		
		観光統計特論	1・2前後		2		○			1						〃		
		社会調査方法特論	1・2前後		2			○							兼1	〃		
	応用科目	(空間創造系科目)																
		観光空間文化特論	1・2前後		2		○				1						前・後いずれかで開講する	
		観光環境文化特論	1・2前後		2		○			1							〃	
		文化空間創造特論	1・2前後		2		○			1							〃	
		空間と経済特論	1・2前後		2		○			1							〃	
		都市マネジメント特論	1・2前後		2		○								兼1	〃		
		居住空間政策特論	1・2前後		2		○				1					〃		
		森林空間政策特論	1・2前後		2		○				1					〃		
		(交流企画系科目)																
		観光交流社会特論	1・2前後		2		○									兼1	前・後いずれかで開講する	
		観光経営人類学特論	1・2前後		2		○			1							〃	
		都市農村交流特論	1・2前後		2		○			1							〃	
		紀州学特論	1・2前後		2		○								兼1	〃		
		異文化交流特論	1・2前後		2		○			1							〃	
交流企画運営特論	1・2前後		2		○			1							〃			
交流科学技術特論	1・2前後		2		○				1						〃			
小計（18科目）		—	0	36	0	—			8	5	0	0	0	兼5				
実践科目	インターンシップA	1・2前後		1				○	1							集中		
	インターンシップB	1・2前後		2				○	1							集中		
	小計（2科目）		0	3	0	—			1	0	0	0	0					
専門研究	専門研究Ⅰ	1後	2				○		8	5								
	専門演習Ⅱ	2通	4				○		8	5								
	小計（2科目）	—	6		0	—			8	5	0	0	0					
合計（25科目）		—	10	39	2	—			8	5	0	0	0	兼6				

学位又は称号	修士（観光学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基礎科目4単位以上、特論科目及び実践科目から20単位以上、専門研究必修6単位の合計30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。			1学年の学期区分	2 期
			1学期の授業期間	15 週
			1時限の授業時間	90 分

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(観光学部観光経営学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 ・ 基 礎 科 目	観光入門	1前	2			○			1						兼2
	情報基礎演習	1前	2				○								兼1
	基礎演習Ⅰ	1前	2				○		7	3					
	基礎演習Ⅱ	1後	2				○		7	3					
	茶道論A	1前後		2		○									兼1
	茶道論B	1前後		2		○									兼2
	華道論	1前後		2		○									兼1
	着物文化論	1前		2		○									兼1
	伝統芸能論	1前		2		○									兼1
	日本語作法Ⅰ	1・2前		2		○									兼1 集中
	日本語作法Ⅱ	1・2後		2		○									兼1
	世界の観光・日本の観光	1・2・3・4後		2		○									兼1
	現代の観光	1・2・3・4後		2		○									兼1
	熊野古道と世界遺産	1・2・3・4後		2		○									兼1
	わかやま学－熊野学－	1・2・3・4前		2		○									兼1
	わき道の紀州学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	和歌山の歴史と文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	マリンスポーツと和歌浦の海	1・2・3・4前		2		○									兼1
	観光と色彩	1・2・3・4前		2		○									兼1
	景観論入門	1・2・3・4後		2		○									兼1
	観光学基礎	1・2・3・4後		2		○									兼1
	生活文化とホスピタリティ	1・2・3・4前		2		○									兼1 集中
	観光と航空ビジネス	1・2・3・4前		2		○									兼1 集中
	観光と地域の活性	1・2・3・4後		2		○									兼1
	職業社会と資格制度	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ジェンダー論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	国際化時代の文化と思想	1・2・3・4後		2		○									兼1
	大学生の読み書きⅠ	1・2・3・4前		2		○									兼1
大学生の読み書きⅡ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
社会環境学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
自然環境学	1・2・3・4後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養・基礎科目	大学を考える	1・2・3・4前		2		○			1									
	学生生活の危機管理	1・2・3・4前		2		○										兼1		
	進路と職業	1・2・3・4後		2		○											兼1	
	社会哲学	1・2・3・4前		2		○											兼1	
	哲学	1・2・3・4前		2		○											兼1	
	心理学	1・2・3・4前		2		○											兼1	
	美術史	1・2・3・4前		2		○											兼1	
	音楽学	1・2・3・4前		2		○											兼1	
	ことばと文化	1・2・3・4後		2		○												兼1
	音楽プロデュース基礎論	1・2・3・4前		2		○												兼1
	世界史の中の日本	1・2・3・4後		2		○												兼1
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○												兼1 集中
	社会科学方法論	1・2・3・4前		2		○												兼1
	経済学の考え方	1・2・3・4前		2		○												兼1
	ミクロ・マクロ経済学入門	1・2・3・4前		2		○												兼1
	経営学	1・2・3・4前		2		○												兼1
	経営の国際比較	1・2・3・4後		2		○				1								
	マーケティング論	1・2・3・4後		2		○					1							
	統計学	1・2・3・4前		2		○												兼1
	法律学概論	1・2・3・4前		2		○												兼1
	企業の仕組み	1・2・3・4前		2		○				1								
	数学A I	1・2・3・4前		2		○												兼1
	数学B	1・2・3・4前		2		○												兼1
	生活科学	1・2・3・4後		2		○												兼1
現代のIT-情報科学入門一	1・2・3・4後		2		○												兼1	
デザインのある生活	1・2・3・4前		2		○												兼1	
簿記原理	1・2・3・4前		2		○												兼1	
小計 (58 科目)		—	8	108	0	—			7	3	0	0	0				兼49	
共通科目	外国語	英語 I	1前	2			○											兼5
		英語 II	1後	2			○											兼5
		英会話 I	1前	2			○											兼2
		英会話 II	1後	2			○											兼2
		英語 III	2前	2			○											兼2
		英語 IV	2後	2			○											兼2
		英会話 III	2前	2			○											兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	外国語	英会話Ⅳ	2後	2			○								兼2
		ドイツ語Ⅰ	1・2後	4			○								兼1
		ドイツ語Ⅱ	2前	4			○								兼1
		仏語Ⅰ	1・2後	4			○								兼1
		仏語Ⅱ	2前	4			○								兼1
		中国語Ⅰ	1・2後	4			○								兼1
		中国語Ⅱ	2前	4			○								兼1
		中国語会話Ⅰ	1・2前	2			○								兼1
		中国語会話Ⅱ	2後	2			○								兼1
		ハングルⅠ	1・2後	4			○								兼1
		ハングルⅡ	2前	4			○								兼1
	小計 (18 科目)	—	8	44	0	—			0	0	0	0	0	兼17	
	スポーツ健康科目	保健体育講義 —健康とスポーツの科学—	1・2前	2			○								兼1
保健体育実技A		1・2前	1					○						兼3	
保健体育実技B		1・2後	1					○						兼3	
小計 (3 科目)			2	2	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
専門基礎科目	ホスピタリティマネジメント	1・2後	2			○			1						
	観光学総論	1・2後	2			○			1						
	世界観光事情	1・2後	2			○								兼1	
	日本観光事情	1・2後	2			○			1						
	観光関連法規	1・2後	2			○								兼1	
	観光経営論	1・2前	2			○			1						
	観光人類学	1・2前	2			○			1						
	観光マーケティング論	1・2後	2			○			1						
	マーケティング・リサーチ	1・2後	2			○			1						
	商業簿記	1・2後	2			○			1						
	映像文化論	1・2前	2			○								兼1	
	環境倫理	1・2後	2			○								兼1	
	観光と天気	1・2前	2			○								兼1	
	産業ホスピタリティ学入門	1・2前	2			○								兼1	
航空ビジネス入門	1・2前	2			○								兼1		
小計 (15 科目)	—	4	26	0	—			4	1	0	0	0	兼6		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 科 目 専 門 コ ア 科 目	文化公共財の観光資源化	2・3・4前		2		○									兼1	集中
	観光戦略論	2・3・4前		2		○				1						
	国際観光論	2・3・4前		2		○				1						
	リーダーシップ論	2・3・4後		2		○					1					
	意思決定論	2・3・4後		2		○					1					
	観光行動論	2・3・4後		2		○				1						
	観光統計	2・3・4後		2		○									兼1	
	ホテルマネジメント	2・3・4後		2		○									兼1	
	サービスマネジメント	2・3・4前		2		○				1						
	ヒューマンサービスマネジメント	2・3・4後		2		○					1					
	観光リスクマネジメント	2・3・4後		2		○									兼1	
	ブランド論	2・3・4後		2		○					1					
	消費者心理学	2・3・4前		2		○					1					
	レジャー論	2・3・4後		2		○									兼1	
	観光デザイン論	2・3・4後		2		○									兼1	
	企業会計	2・3・4前		2		○				1						
	企業税務	2・3・4後		2		○				1						
	観光産業論	2・3・4後		2		○				1						
	観光人材論	2・3・4前		2		○				1						
	観光と医療	2・3・4前		2		○					1					
	観光英語	2・3・4前		2		○									兼1	
	観光中国語	2・3・4前		2		○									兼1	集中
	観光実務ケーススタディ	2・3・4前		2			○								兼1	集中
	バリアフリー観光	2・3・4前		2		○									兼1	集中
	外国語文献講読〔英語〕	2・3・4前		2			○								兼2	
	外国語文献講読〔独語〕	2・3・4前		2			○			1						
	外国語文献講読〔仏語〕	2・3・4前		2			○			1						
	外国語文献講読〔中国語〕	2・3・4前		2			○								兼1	集中
	証券市場論	2・3・4前		2		○				1						
	金融システム論	2・3・4後		2		○				1						
観光カリスマ論	2・3・4後		2		○				1							
高等教育と観光人材育成論	2・3・4後		2		○				1							
サービスと観光の経営学	2・3・4前		2		○									兼1		
航空産業論	2・3・4後		2		○									兼1		
宿泊産業概論	2・3・4前		2		○									兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 コア 科目	産業ホスピタリティ学	2・3・4後		2		○										兼1	
	観光と宇宙	2・3・4後		2		○										兼1	
	観光文化論	2・3・4前		2		○										兼1	
	海外観光地研究	2・3・4前		2		○										兼1	
	航空ビジネス論	2・3・4後		2		○										兼1	
	商品(旅)企画研究	2・3・4前		2		○										兼1	
	ハワイの観光開発	2・3・4後		2		○										兼1	
	音楽パフォーマンス	2・3・4前		2		○										兼1	
	小計 (4 3 科目)	—	0	86	0	—			7	3	0	0	0		兼17		
	専門 科目 専門 支援 科目	経営学総論	2・3・4後		2		○			1							
		人的資源管理論	2・3・4前		2		○			1							
		企業倫理論	2・3・4前		2		○										兼1
		競争戦略論	2・3・4後		2		○										兼1
		日本の経営論	2・3・4後		2		○			1							
		交通システム論	2・3・4前		2		○										兼1
		ファイナンスⅠ	2・3・4前		2		○										兼1
		ファイナンスⅡ	2・3・4後		2		○										兼1
		会社法 ー商法〔会社総論〕ー	2・3・4前		2		○										兼1
		民法 ー総則ー	2・3・4後		2		○										兼1
保険論 ー社会保険関係法ー		2・3・4前		2		○										兼1	
行政法総論		2・3・4前		2		○										兼1	
インターンシップA		3前後		1				○								集中	
インターンシップB		3前後		2				○								集中	
インターンシップC		3前後		4				○								集中	
インターンシップD	3前後		6				○								集中		
インターンシップE	3前後		8				○								集中		
自主演習	2・3・4前後		1				○										
小計 (1 8 科目)	—	0	46	0	—			1	0	0	0	0		兼8			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門演習・卒業論文	課題演習	2通		4			○		1	2					
	専門演習 I	3通	4				○		7	3					
	専門演習 II・卒業論文	4通	8				○		7	3					
	小計 (3 科目)	—	12	4	0		—		7	3	0	0	0	0	
合計 (158 科目)		—	34	316	0		—		8	3	0	0	0	0	兼86
学位又は称号	学士 (観光学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
教養・基礎科目 24単位 外国語 16単位 第1外国語8単位必修 (英語) 第2外国語8単位選択必修 (英語、独語、仏語、中国語、ハングル) スポーツ健康科目 4単位 (講義2単位、実技2単位) 専門教育科目 80単位 専門基礎科目 12単位 4単位必修 8単位選択必修 専門コア科目 28単位選択必修 専門支援科目 14単位選択必修 他学科専門科目 14単位選択必修 専門演習・卒業論文12単位						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							
合計 124 単位															

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(観光学部地域再生学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 ・ 基 礎 科 目	観光入門	1前	2			○				2					兼1
	情報基礎演習	1前	2				○		1						
	基礎演習Ⅰ	1前	2				○		7	6	1				
	基礎演習Ⅱ	1後	2				○		7	6	1				
	茶道論A	1前後		2		○									兼1
	茶道論B	1前後		2		○									兼2
	華道論	1前後		2		○									兼1
	着物文化論	1前		2		○									兼1
	伝統芸能論	1前		2		○									兼1
	日本語作法Ⅰ	1・2前		2		○									兼1 集中
	日本語作法Ⅱ	1・2後		2		○									兼1
	世界の観光・日本の観光	1・2・3・4後		2		○									兼1
	現代の観光	1・2・3・4後		2		○									兼1
	熊野古道と世界遺産	1・2・3・4後		2		○									兼1
	わかやま学ー熊野学ー	1・2・3・4前		2		○									兼1
	わき道の紀州学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	和歌山の歴史と文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	マリンスポーツと和歌浦の海	1・2・3・4前		2		○									兼1
	観光と色彩	1・2・3・4前		2		○				1					
	景観論入門	1・2・3・4後		2		○									兼1
	観光学基礎	1・2・3・4後		2		○									兼1
	生活文化とホスピタリティ	1・2・3・4前		2		○									兼1 集中
	観光と航空ビジネス	1・2・3・4前		2		○									兼1 集中
	観光と地域の活性	1・2・3・4後		2		○									兼1
	職業社会と資格制度	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ジェンダー論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	国際化時代の文化と思想	1・2・3・4後		2		○									兼1
	大学生の読み書きⅠ	1・2・3・4前		2		○									兼1
大学生の読み書きⅡ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
社会環境学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
自然環境学	1・2・3・4後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養・基礎科目	大学を考える	1・2・3・4前		2		○										兼1
	学生生活の危機管理	1・2・3・4前		2		○										兼1
	進路と職業	1・2・3・4後		2		○										兼1
	社会哲学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	哲学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	心理学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	美術史	1・2・3・4前		2		○										兼1
	音楽学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	ことばと文化	1・2・3・4後		2		○				1						
	音楽プロデュース基礎論	1・2・3・4前		2		○				1						
	世界史の中の日本	1・2・3・4後		2		○										兼1
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○										兼1 集中
	社会科学方法論	1・2・3・4前		2		○										兼1
	経済学の考え方	1・2・3・4前		2		○										兼1
	ミクロ・マクロ経済学入門	1・2・3・4前		2		○										兼1
	経営学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	経営の国際比較	1・2・3・4後		2		○										兼1
	マーケティング論	1・2・3・4後		2		○										兼1
	統計学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	法律学概論	1・2・3・4前		2		○										兼1
	企業の仕組み	1・2・3・4前		2		○										兼1
	数学A I	1・2・3・4前		2		○										兼1
	数学B	1・2・3・4前		2		○										兼1
	生活科学	1・2・3・4後		2		○										兼1
現代のIT-情報科学入門一	1・2・3・4後		2		○										兼1	
デザインのある生活	1・2・3・4前		2		○										兼1	
簿記原理	1・2・3・4前		2		○										兼1	
小計 (58 科目)		—	8	108	0	—			7	6	1	0	0	兼48		
共通科目	外国語	英語 I	1前	2			○			1	1				兼3	
		英語 II	1後	2			○			1	1				兼3	
		英会話 I	1前	2			○								兼2	
		英会話 II	1後	2			○								兼2	
		英語 III	2前	2			○			1					兼1	
		英語 IV	2後	2			○			1					兼1	
		英会話 III	2前	2			○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	外国語	英会話Ⅳ	2後	2			○								兼2
		ドイツ語Ⅰ	1・2後	4			○								兼1
		ドイツ語Ⅱ	2前	4			○								兼1
		仏語Ⅰ	1・2後	4			○								兼1
		仏語Ⅱ	2前	4			○								兼1
		中国語Ⅰ	1・2後	4			○								兼1
		中国語Ⅱ	2前	4			○								兼1
		中国語会話Ⅰ	1・2前	2			○								兼1
		中国語会話Ⅱ	2後	2			○								兼1
		ハングルⅠ	1・2後	4			○								兼1
		ハングルⅡ	2前	4			○								兼1
	小計 (18 科目)	—	8	44	0	—			1	1	0	0	0	兼15	
	スポーツ健康科目	保健体育講義 —健康とスポーツの科学—	1・2前	2			○								兼1
		保健体育実技A	1・2前	1					○						兼3
保健体育実技B		1・2後	1					○						兼3	
小計 (3 科目)			2	2	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
専門科目	専門基礎科目	ホスピタリティマネジメント	1・2後	2			○								兼1
		観光学総論	1・2後	2			○								兼1
		世界観光事情	1・2後	2			○								兼1
		日本観光事情	1・2後	2			○								兼1
		観光関連法規	1・2後	2			○				1				
		観光政策	1・2前	2			○				1				
		都市と農村	1・2後	2			○			1					
		地域再生マネジメント	1・2前	2			○				1				
		森林資源利用論	1・2前	2			○				1				
		中山間地域再生論	1・2前	2			○			1					
		国際社会学	1・2前	2			○								兼1 集中
		映像文化論	1・2前	2			○			1					
		環境倫理	1・2後	2			○			1					
		観光と天気	1・2前	2			○				1				
		マーケティング・リサーチ	1・2後	2			○								兼1
		航空ビジネス入門	1・2前	2			○								兼1
小計 (16 科目)		4	28	0	—			4	4	1	0	0	兼6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 専門コア科目	文化公共財の観光資源化	2・3・4前		2		○									兼1	集中
	地域再生とNPO	2・3・4後		2		○				1						
	地域防災論	2・3・4前		2		○				1						
	地場産品・観光物産の生産と流通	2・3・4後		2		○				1						
	地域緑資源論	2・3・4後		2		○				1						
	グリーン・ツーリズム論	2・3・4前		2		○				1						
	森林レクリエーション論	2・3・4後		2		○				1						
	地域資源論	2・3・4後		2		○				1						
	地方行政論	2・3・4前		2		○					1					
	地方分権と地域再生	2・3・4後		2		○					1					
	地域情報ネットワーク	2・3・4後		2		○				1						
	地域情報発信論	2・3・4後		2		○				1						
	観光人材論	2・3・4前		2		○									兼1	
	観光デザイン論	2・3・4後		2		○					1					
	観光英語	2・3・4前		2		○									兼1	
	観光中国語	2・3・4前		2		○									兼1	集中
	地域マネジメントケーススタディ	2・3・4前		2			○								兼1	集中
	観光と地域再生	2・3・4前		2		○						1				
	住まい・街づくり論	2・3・4前		2		○				1						
	空間経済学	2・3・4後		2		○				1						
	観光国土学	2・3・4後		2		○									兼1	集中
	観光地計画論	2・3・4後		2		○					1					
	レジャー論	2・3・4後		2		○					1					
	観光社会学	2・3・4後		2		○					1					
	社会調査法	2・3・4前		2		○									兼1	集中
	外国語文献講読〔英語〕	2・3・4前		2			○				2					
	外国語文献講読〔独語〕	2・3・4前		2			○								兼1	
	外国語文献講読〔仏語〕	2・3・4前		2			○								兼1	
	外国語文献講読〔中国語〕	2・3・4前		2			○								兼1	集中
	Environment & Culture	2・3・4後		2		○				1						
Intercultural communication	2・3・4後		2		○				1							
文化交流	2・3・4後		2		○				1							
観光文化論	2・3・4前		2		○				1							
ミュージアムマネジメント	2・3・4後		2		○				1							
観光と宇宙	2・3・4後		2		○				1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 コア科目	観光と音楽	2・3・4後		2		○			1							
	音楽プロデュース実践論	2・3・4前		2		○			1							
	地域文化交流史	2・3・4後		2		○									兼1	
	観光コンテンツ論	2・3・4前		2		○				1						
	科学コミュニケーション論	2・3・4後		2		○				1						
	観光カリスマ論	2・3・4後		2		○									兼1	
	海外観光地研究	2・3・4前		2		○									兼1	
	航空ビジネス論	2・3・4後		2		○									兼1	
	商品(旅)企画研究	2・3・4前		2		○									兼1	
	ハワイの観光開発	2・3・4後		2		○									兼1	
	音楽パフォーマンス	2・3・4前		2		○				1						
小計 (46 科目)			0	92	0	—			7	5	1	0	0	兼13		
専門 科目	中心市街地再生論	2・3・4前		2		○									兼1	
	都市政策	2・3・4後		2		○									兼1	
	政策評価論	2・3・4前		2		○									兼1	
	民法 ー総則ー	2・3・4後		2		○									兼1	
	地方財政論	2・3・4後		2		○									兼1	
	地域居住福祉論	2・3・4前		2		○									兼1	
	政策統計解析	2・3・4後		2		○									兼1	
	公益事業論	2・3・4後		2		○									兼1	
	地域再生と社会教育	2・3・4前		2		○									兼1	
	都市計画	2・3・4前		2		○									兼1	
	地域環境管理	2・3・4前		2		○									兼1	
	地域計画	2・3・4後		2		○									兼1	
	生活環境システム	2・3・4後		2		○									兼1	
	緑地環境学	2・3・4前		2		○									兼1	
	森林環境学	2・3・4後		2		○									兼1	
	環境緑化法	2・3・4後		2		○									兼1	
	インターンシップA	3前後		1					○							集中
	インターンシップB	3前後		2					○							集中
インターンシップC	3前後		4					○							集中	
インターンシップD	3前後		6					○							集中	
インターンシップE	3前後		8					○							集中	
自主演習	2・3・4前後		1					○								
小計 (22 科目)			0	54	0	—			0	0	0	0	0	兼15		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門演習・卒業論文	課題演習	2通		4			○		1	2	1				
	専門演習Ⅰ	3通	4				○		7	6	1				
	専門演習Ⅱ・卒業論文	4通	8				○		7	6	1				
	小計 (3 科目)		12	4	0		—		7	6	1	0	0	0	
合計 (166 科目)		—	34	332	0		—		7	6	1	0	0	兼88	
学位又は称号	学士 (観光学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
教養・基礎科目 24単位 外国語 16単位 第1外国語8単位必修 (英語) 第2外国語8単位選択必修 (英語、独語、仏語、中国語、ハングル) スポーツ健康科目 4単位 (講義2単位、実技2単位) 専門教育科目 80単位 専門基礎科目 12単位 4単位必修 8単位選択必修 専門コア科目 28単位選択必修 専門支援科目 14単位選択必修 他学科専門科目 14単位選択必修 専門演習・卒業論文12単位 合計 124 単位						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

別記様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(観光学研究科観光学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 礎 科 目	観光学総論	観光は、人間が非日常的なものを求めて動くことが根本である。従って、観光は人間が定住的場所以外で生活することであるととも、観光事業は基本的には地域に密着し、経営戦略にしても地域戦略として展開せざるをえないものとなる。本講義は、この原点にたつて、第1に、これまで観光がどのように考えられてきたかを、ポストモダン論をも入れて考察する。第2に、観光史の上になつてマス・ツーリズムはじめ観光の諸形態を論究する。第3に、観光の経済理論に立脚して観光の需要・供給問題を論じ、観光客満足など観光客の行動形態を考察する。第4に、持続可能なツーリズム論等を含めて、観光地振興に係る諸領域を考察する。最後に、観光理論の実に多様なタイプを整理し、今後の発展動向を展望する。	
	観光まちづくり概論	<p>(概要) 観光まちづくりについて考える際には、観光のための空間創造がいかにしてなされるのか、どのように観光のための交流が企画されるのかという問題について検討することが重要である。そこで本講義では、空間創造と交流企画という2つの視座の概要を論じ、観光まちづくりについて考察する際の基礎的な考え方を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 廣岡裕一/3回) 全体の統括を行うと同時に、観光まちづくりについて考える際に有効な視座の概要について講述する。</p> <p>(13 堀田祐三子/3回) 都市政策論の視点から観光まちづくりにおける空間創造について講述する。</p> <p>(11 神田孝治/3回) 文化地理学の視点から観光まちづくりにおける空間創造について講述する。</p> <p>(4 竹鼻圭子/3回) 異文化交流の視点から観光まちづくりにおける交流企画について講述する。</p> <p>(5 出口竜也/3回) 経営人類学の視点から観光まちづくりにおける交流企画について講述する。</p>	オムニバス方式
	観光まちづくり演習	<p>(概要) 観光まちづくりの実践にあたっては、観光のための空間創造をいかに進めるのか、どのように観光のための交流を企画するのかという点について理解し、実行できることが重要である。そこで本演習では、空間創造と交流企画に焦点をあて、観光まちづくりに必要な基礎的な知識と実践力を獲得することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 藤田武弘/3回) 全体の統括を行うと同時に、観光まちづくりにおいて有効な基礎的な知識と実践について指導する。</p> <p>(8 米山龍介/3回) 音楽に注目して観光まちづくりにおける空間創造の知識と実践について指導する。</p> <p>(10 大浦由美/3回) 山村に注目して観光まちづくりにおける空間創造の知識と実践について指導する。</p> <p>(2 尾久土正己/3回) ミュージアムに注目して観光まちづくりにおける交流企画の知識と実践について指導する。</p> <p>(9 大井達雄/3回) 観光統計に注目して観光まちづくりにおける交流企画の知識と実践について指導する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特論	観光まちづくり特論	観光は従来、地域の歴史的・文化的資源を食いつぶすサステナブルではない行為と見られがちであった。これが一転して現在では、地域資源をうまく活用して経済の活性化に繋げるもっとも説得力に富んだ方策として見なされるようになってきている。観光が、まち全体の振興策を考える際の主要な問題として認識されるようになったのである。そこで本講義では、観光によるまちづくりの現状を具体的な事例を用いて検討するなかで、まちづくりにおいて観光に注目することの必要性とその可能性について講述する。	
	観光事業特論	観光事業の特色は、多くの分野を内包するシステムとして成り立っているところにある。観光資源となるもの以外に、旅行業、交通業、宿泊業、飲食業などがあるが、これらの事業部門は、それぞれ観光事業のみをその役割としているわけではない。しかし、これらの事業部門は観光事業遂行上緊密な連携関係にあることが必要である。そこで本講義では、観光関連諸事業部門の全体的関連とともに、各事業分門ごとの特殊性について講述する。	
	観光統計特論	観光庁を中心に観光統計の整備が進められている。今まで、実際に観光市場の実証分析を行っても、統計調査の信頼性が低いため、分析結果については多くの問題点が指摘されていた。具体的には、観光需要予測を行っても、現実と大きくはかけ離れた結果となることがしばしばみられ、多くの観光事業が経営破たんしている。しかし、今後はそのような状況は改善され、実証分析を中心とした観光研究が増加し、データ解析に基づいた客観性が求められることになる。そこで本講義では観光研究において使用されている基本的な計量分析手法と、研究活動を行う上で必要な分析ツールについて講述する。	
	社会調査方法特論	社会調査のデザイン、実施、分析までの過程を、演習（フィールドワーク）を通して経験し、その実践に必要な技術や知識、態度の習得をめざす。種々の分析のテクニックよりは、基本的な考え方や意義に焦点を当て、観光という現象を多様な側面から実証的に捉えることの重要性を理解する。 前半（第1講～第5講）は講義を中心として、アンケート調査方法やインタビュー調査、ワークショップの方法等の方法論を学び、後半（第6講以降）は質的調査・量的調査の両方について演習を行う。観光という現象を扱う上で必要とされる調査方法およびそのあり方について、受講者全員で対話・討議を行いながら進める。	
応用科目目	観光空間文化特論	人文社会科学においては、近現代の社会についての理解を深めるために、1980年代後半から「空間」と「文化」の問題に注目してさまざまな社会現象を考察してきた。なかでも、空間的で文化的な実践である観光は、近現代社会を象徴する現象としてしばしば検討の対象となり、空間理論や文化理論を用いた視座からその多様な特徴が明らかにされてきている。そこで本講義では、こうした空間や文化に注目した理論を用いながら、観光の空間がいかに文化的に生産されているのかについて講述する。	
	観光環境文化特論	今日気候変動など深刻な環境変化にもとめない、社会のあらゆる場面において環境意識が高まってきている。今や全ての人間活動において、環境への積極的な貢献が求められており、観光もその例外ではない。ここでは「持続性」という基本的理念から出発し、環境と人間の関わり、特に環境倫理とその表現を様々な角度から考察し、それが今日の観光においてどのように反映されているのかを分析する。分析は個人、観光オペレーター、観光客、地域、国、世界、という多様なレベルからなされる。また、今日の環境対応には地球規模の提携と協力が求められると同時に、文化的摩擦も多いことを考慮し、本講義は異文化間理解の視点も重視して講述する。なお、本講義の言語は英語を用いる。	
	文化空間創造特論	グローバル化する現代社会において、文化的な空間が注目されている。文化が他の場所との差違化のために極めて重要だからである。そして、差違を求める観光客にとっての中心的な観光資源の一つに、まさにこの文化的な空間が存在している。そのため、観光によるまちづくりを考えるにあたって、いかに文化的な空間を創造するのかという点が大きな問題となる。本講義では文化領域の中で、特に音楽のための、音楽が創り出す文化的な空間に焦点をあて、観光のための音楽空間創造について講述する。	
	空間と経済特論	都市や農村の空間は、各種インフラや施設・住宅建設などの開発行為によって形作られたため、観光資源としての空間の魅力の変化は開発のあり方に強く左右される。そこで本授業では、第1に、地価、土地資本などの諸概念を含む開発行為のメカニズム、第2に、社会資本建設や民間開発に伴う各種社会的規制といった国家や自治体の開発政策のあり方を考察する。そのことを通じて、空間経済・空間政策の観点から、今後の観光まちづくりのあり方を講述する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
特 論 科 目	(空間創造系科目)	都市マネジメント特論	地方都市の再生に必要な理論と政策について経営学や経済学の知識を用いながら、講義、討論等を行う。特に都市の満足度最大化の観点から、都市への愛着の価値である「センチメンタル価値」について学習する。また、中心市街地活性化の事例を参照しつつ、その内容、性質、政策論などについて解説を行う。また、2010年の政権交代(労働党政権から保守党政権へ)を境に地域政策に変化が見られるイギリスの都市政策(特に地域開発局(RDA)の役割など)や、EUの構造補助金政策などヨーロッパの都市再生についても考察を行う。	
		居住空間政策特論	戦後経済成長優先の開発政策の下で創り出されたのは、スプロールした無秩序な空間と郊外団地に象徴される画一的空間であった。21世紀に入り、環境・経済・社会のサステナビリティへの配慮や美しい景観を求める機運が高まるなかで、居住空間形成においても同様の動きが見られる。居住空間の態様は地域の魅力創出に大きな影響を及ぼす。そこで本講義では、日本の居住および居住空間政策に係わる諸問題を検証し、既存ストックを活かした豊かな居住空間形成のための諸方策について講述する。	
		森林空間政策特論	森林・林業および農山村の社会経済的な特徴を把握し、各時期における国・地方レベルでの政策課題や内発的取り組みの展開を論じる。とりわけ、経済のグローバル化や環境制約が進展する現代において、山村最大の地域資源であり、環境資源、木材資源としても重要な森林資源の持続的経営を可能とする山村地域社会を構築するために、森林空間を活かした観光や多様な主体との交流・協働・連携による地域づくりの可能性と現代的意義について講述する。	
	(交流企画系科目)	観光交流社会特論	テーマは観光を通じた人の移動・交流と社会との関係である。観光は人の移動を伴うものであり、ある場所の人が別の場所を訪れることで、訪問者と受け入れ側の人々との間で接触が生まれる。この接触の形態や受け入れ地域社会への影響は、観光のタイプや観光開発のあり方、訪問者の嗜好によって大きく異なる。そこで本講義では、「地元の人々とのふれあい」を観光資源とし、訪問側と受け入れ側の間で積極的な交流が行われた事例、訪問者と受け入れ側の人々の接触が両者の対立や受け入れ側の不利益につながった事例などをとり上げ、観光地化が地域社会に及ぼす影響について講述する。なお、本講義の言語は英語を用いる。	
		観光経営人類学特論	「社会システムの運営」＝「経営」を人類学的に研究することをめざした経営人類学における研究成果を概観するとともに、「観光」を対象としたテーマにしばり込むことで観光経営人類学を構築することの意味や意義について検討する。具体的には、経営学が主たる研究対象としてきた会社経営に人類学的知見やフィールドワークという手法を持ち込もうとしたこと(たとえば、会社儀礼の研究や社誌の記述)、人類学が得意としてきた分野(特に祭礼の研究)に経営学者が参入しようとしたこと、そして両者の立場が融合して得られた諸成果(企業博物館や経営理念の研究)について検討し、こうした視角にもとづいた観光研究の意味と意義について講述する。	
		都市農村交流特論	近年、都市と農村の関係が、「対立」から「共生・対流」へと変化しつつあることが注目されている。そこで本講義では、農村に固有な各種地域資源の機能および役割を評価・解明するとともに、それらを活かした「農工商連携(6次産業化)」や「日本型グリーン・ツーリズム」の展開に関する理論および政策課題について講じる。また、持続可能な農村再生に寄与するための「観光(都市農村交流を通じた交流人口の拡大)」による地域づくりの可能性と現代的意義、ならびにその評価・分析手法に関しても講述する。	
		紀州学特論	地域が多くの問題や課題に直面するなかで、まちづくりや観光などと結びついた地域再生をめざすさまざまな取り組みが全国各地で展開されている。そこでは、地域を捉えなおす多角的、多様な視点が求められる。「過去に学び、現在を生きる」ワーキングも不可欠である。交流や連携は、そうした地域を耕す取り組みのなかから生まれてくる。 本講義は、熊野と黒潮文化を対象とし、紀州和歌山の歴史文化・民俗・食とその文化等と、紀州人のなかを流れる精神世界や思想を考察する。そのことをつうじて、成熟が期待されるこれからの観光や、まちづくりのあり方を講述する。	
	異文化交流特論	日本の海外との異文化交流をテーマとする。日本は古くは、中国の政治体制や思想、文化を受容してきた。明治維新以後は西洋文化を受容、吸収してきた歴史がある。他方、日本文化やそれを包含する東洋文化が西洋に与えた影響も大きい。例えば、英国がオリジナルとみなされている紅茶やガーデニングの文化も、近世初頭の東洋、あるいは日本にその由来を求めることができる。そこで本講義では、これらの検討を通じて異文化交流の歴史・現状・課題について講述する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特論科目	(交流企画系科目) 交流企画運営特論	欧米ではミュージアムが観光客と自然や歴史・文化などの観光対象の交流の場として、地域の観光の中核施設になっているが、我が国でも動物園や美術館などのミュージアムがまちづくりの牽引役として成功している事例が増えている。また近年、新しいメディアやテクノロジーの導入によって、観光対象を時間や空間を超えて様々な視点から表現できるようになっている。そこで本講義では、施設としてのミュージアムだけでなくまち全体をミュージアムと捉え、交流の場を創造し、交流事業を企画運営する手法について社会科学的立場だけでなく理工学的な立場から講述する。	
	交流科学技術特論	観光交流圏の拡大や観光情報の伝達には科学技術の進展が密接に関係している。鉄道から飛行機、ロケットへと続く科学技術の進展による交通革命は、人々の交流の範囲を飛躍的に拡大させ、電話からテレビ、インターネットへと続く通信技術の発達は観光情報の内容と流通のあり方を大きく変容させた。一方で、気候変動や石油枯渇等々、近い将来に予想される「危機」は科学技術の発達にともなう地球環境への負の影響の結果とされ、観光交流の対象や移動手段のエネルギーの先行きにも大きな懸念を産み出している。そこで本講義では、科学技術の進展と観光における交流との関係性を、観光の未来像を描くことも含め、地球環境に注目しつつ講述する。	
実践科目	インターンシップA	「観光まちづくりコーディネーター」としての資質を向上させるためには、実際の現場における経験から学ぶことが重要である。特に、観光まちづくりの企画立案に参画し、そのあり方を考えることは、コーディネーターとしての資質向上に大きな役割を果たす。そこでインターンシップAでは、観光まちづくりに関連する自治体やNPO等で、その企画立案にかかわる短期(30時間)の就業体験を実施することで、具体的な観光まちづくりの企画立案に必要な思考力と実践力、そして知識を獲得することを目的とする。	
	インターンシップB	「観光まちづくりコーディネーター」としての資質を向上させるためには、実際の現場における経験から学ぶことが重要である。観光まちづくりの企画立案に参画してそのあり方を考えることに加えて、その企画の運営に参画し結果を検証することが、コーディネーターとしての資質向上に極めて大きな役割を果たすのである。そこでインターンシップBでは、観光まちづくりに関連する自治体やNPO等で、中期(60時間)の就業体験を実施することで、具体的な観光まちづくりの企画の立案と運営に必要な思考力と実践力、そして知識を獲得することを目的とする。	
専門研究	専門研究 I	<p>(概要) 本授業では、修士論文執筆の前提となる予備的な研究課題設定と文献調査および基礎的データの収集・分析を行う。専門研究Ⅱにおける修士論文作成を具体化するための準備段階として位置づけられる科目である。研究指導は、研究指導教員を責任者として副研究指導教員の助言・補佐による指導体制により行う。</p> <p>(9 大井 達雄) 観光サテライト勘定による観光産業分析をはじめとする観光統計に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 大浦 由美) 農村部や森林域における地域資源を活用した観光まちづくりに関する研究指導を行う。</p> <p>(2 尾久土 正己) テクノロジーを用いた表現手法によるミュージアムの観光交流の場としての活性化に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 加藤 久美) 環境倫理の基本理念とその観光をはじめとする現代社会の諸活動への反映に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 神田 孝治) 文化論および空間論的視座から、近現代社会における観光空間の文化的生産に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 竹鼻 圭子) 日本と海外との異文化交流をテーマとし、漢字文化圏での交流や欧米との交流に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 出口 竜也) 「経営学」と「人類学」を融合させた経営人類学的視点から、観光をめぐるさまざまな経営現象に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 中串 孝志) 科学技術に注目し、新しい観光コンテンツの創成・プロデュースに関する研究指導を行う。</p> <p>(6 廣岡 裕一) 経営学的アプローチや法学的アプローチを用いて、旅行業に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	専門研究Ⅰ	<p>(7 藤田 武弘) 都市と農村の共生ないしは対流を通じた、農山村地域の再生に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 堀田 祐三子) 居住空間を中心とした都市空間形成のための方策と主体の役割に関する研究指導を行う。</p> <p>(1 山田 良治) 都市および農村の空間形成施策や景観問題など、空間経済の理論と分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 米山 龍介) 音楽プロデュースに焦点をあて、音空間の創造による観光まちづくりに関する研究指導を行う。</p>	
専門研究	専門研究Ⅱ	<p>(概要) 本授業では、学術的・社会的意義のある独自の研究課題を設定し、修士論文の執筆を行う。研究論文指導は、研究指導教員を責任者として副研究指導教員の助言・補佐による指導体制により行う。</p> <p>(9 大井 達雄) 観光サテライト勘定による観光産業分析をはじめとする観光統計に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(10 大浦 由美) 農村部や森林域における地域資源を活用した観光まちづくりに関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(2 尾久土 正己) テクノロジーを用いた表現手法によるミュージアムの観光交流の場としての活性化に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(3 加藤 久美) 環境倫理の基本理念とその観光をはじめとする現代社会の諸活動への反映に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(11 神田 孝治) 文化論および空間論的視座から、近現代社会における観光空間の文化的生産に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(4 竹鼻 圭子) 日本と海外との異文化交流をテーマとし、漢字文化圏での交流や欧米との交流に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(5 出口 竜也) 「経営学」と「人類学」を融合させた経営人類学的視点から、観光をめぐるさまざまな経営現象に関する修士論文の研究指導を行う</p> <p>(12 中串 孝志) 科学技術に注目し、新しい観光コンテンツの創成・プロデュースに関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(6 廣岡 裕一) 経営学的アプローチや法学的アプローチを用いて、旅行業に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(7 藤田 武弘) 都市と農村の共生ないしは対流を通じた、農山村地域の再生に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(13 堀田 祐三子) 居住空間を中心とした都市空間形成のための方策と主体の役割に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(1 山田 良治) 都市および農村の空間形成施策や景観問題など、空間経済の理論と分析に関する修士論文の研究指導を行う。</p> <p>(8 米山 龍介) 音楽プロデュースに焦点をあて、音空間の創造による観光まちづくりに関する修士論文の研究指導を行う。</p>	